

調査結果の概要編

児 童 生 徒

保 護 者

学 級 担 任

調査結果の概要編の構成は、次のようにした。

増加，減少，校種による特色などを示しながら，調査結果の概要を記した。

調査の対象
および整理番号

調査結果のポイントとなる点

調査項目

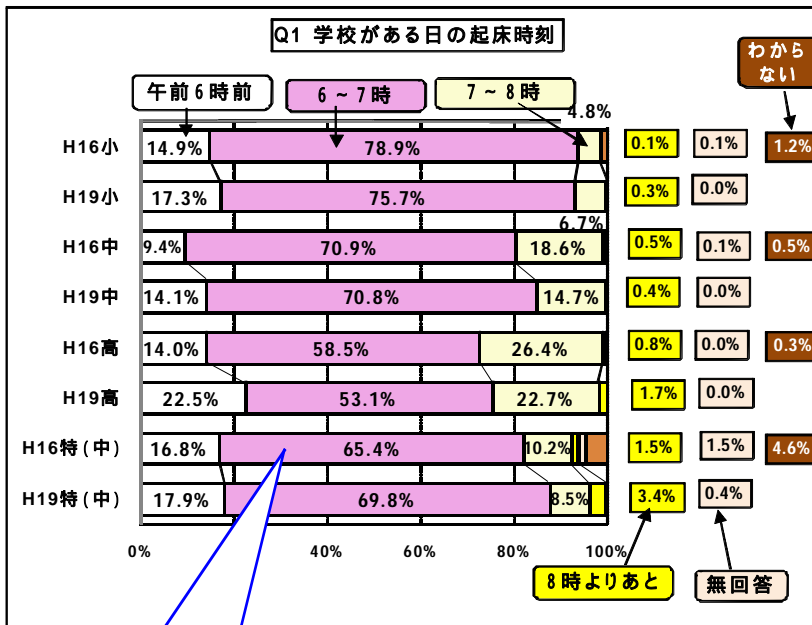
質問紙調査票の番号

児童生徒 1

学校がある日の起床時刻

小・中・高・特
Q1・Q1・Q1・Q1

→ 各校種で午前6時前に起床する割合が増加



【概要】

各校種で午前6時前に起床する割合が増加している。特に中学校・高等学校でその傾向が見られる。

【参考】

19年度全国学力・学習状況調査 (文部科学省)
 普段(月～金曜日)、何時ごろに起きますか
 (全国、国・公・私立) (%)

	小6	中3
6時より前	7.7	8.7
6時以降、6時30分前	26.9	24.1
6時30分以降、7時より前	40.0	32.0
7時以降、7時30分前	21.8	25.8
7時30分以降、8時より前	3.0	8.3
8時以降	0.5	1.1
無回答	0	0.1

【本調査との関連項目】

P5 児童生徒2「就寝時刻」

調査結果のグラフを示した。

16年度調査において実施している場合は、経年での比較ができるように、16年度の結果も示した。

全国的な調査が行われている場合、その結果を示した。

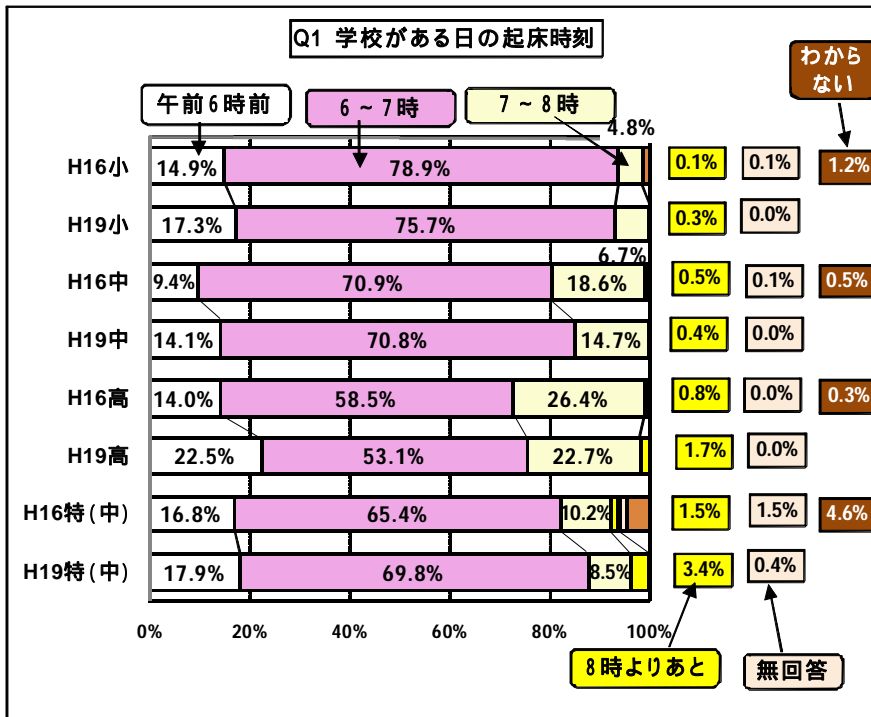
本調査における関連項目を示した。本報告書での「ページ」・「対象と整理番号」, 「調査項目」を記した。

自分の実態に最も近いものを一つ選択 (児童生徒 1 ~ 32)

児童生徒 1 学校がある日の起床時刻

→ 各校種で午前6時前に起床する割合が増加

小・中・高・特
Q1・Q1・Q1・Q1



【概要】

各校種で午前6時前に起床する割合が増加している。特に中学校・高等学校でその傾向が見られる。

【参考】

19年度全国学力・学習状況調査 (文部科学省)
普段(月～金曜日)、何時ごろに起きますか (全国, 国・公・私立) (%)

	小6	中3
6時より前	7.7	8.7
6時以降, 6時30分前	26.9	24.1
6時30分以降, 7時より前	40.0	32.0
7時以降, 7時30分前	21.8	25.8
7時30分以降, 8時より前	3.0	8.3
8時以降	0.5	1.1
無回答	0	0.1

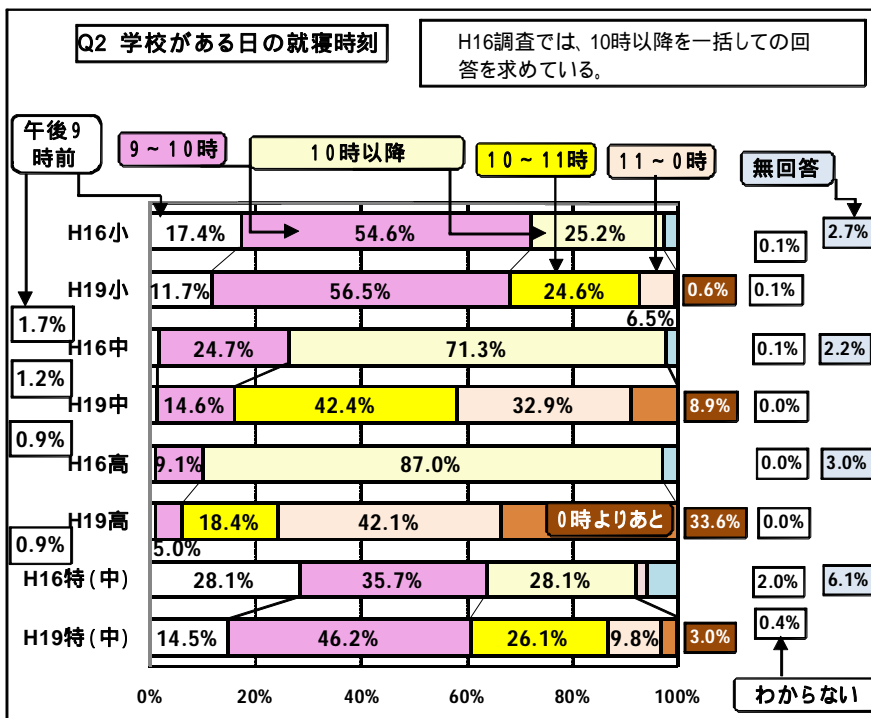
【本調査との関連項目】

P5 児童生徒2「就寝時刻」

児童生徒 2 学校がある日の就寝時刻

→ 各校種で10時以降に就寝する割合が増加

小・中・高・特
Q2・Q2・Q2・Q2



【概要】

16年度調査と比較して、各校種ともに午後10時以降に就寝する割合が増加している。

午後10時以降に就寝する割合
小 31.7% (6.5% 増加)
中 84.2% (12.9% 増加)
高 94.1% (7.1% 増加)
特 38.9% (10.8% 増加)
()は16年度調査との差

【参考】

文部科学省「平成19年度全国学力・学習状況調査」

普段(月～金), 午後10時以降に就寝すると回答した割合 (全国, 国・公・私立)
小6 58.1% 中3 94.6%
集計結果をもとに算出

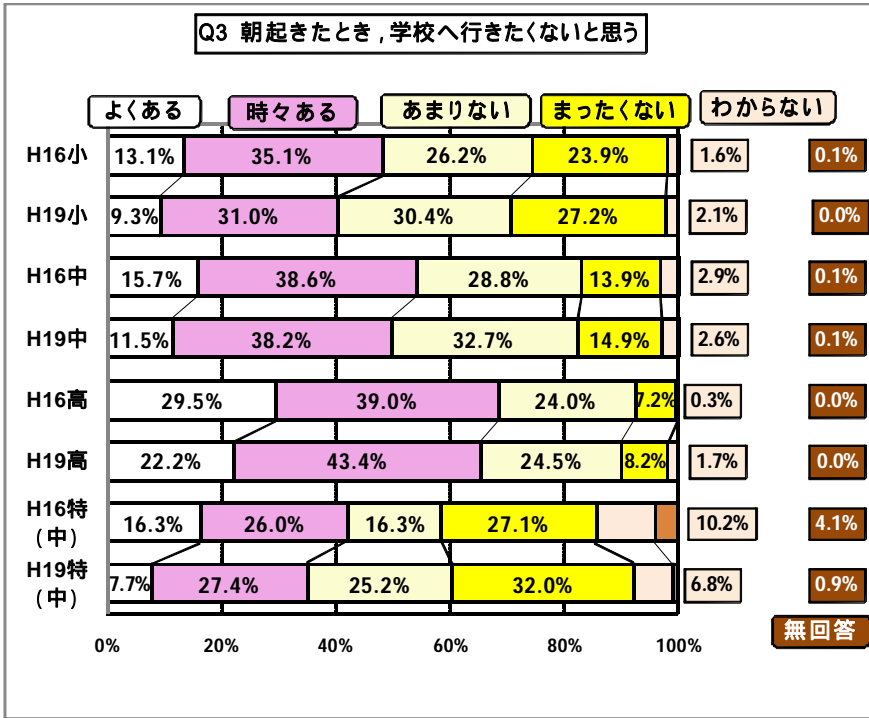
【本調査との関連項目】

P5 児童生徒1「起床時刻」
P42 学級担任1「朝から疲労感の子ども」

児童生徒3 朝起きたとき、学校へ行きたくないと思う

⇒ 小・中・特別支援学校で否定的な割合が増加

小・中・高・特
Q3・Q3・Q3・Q3



【概要】

16年度調査と比較して、小・中・特別支援学校で「あまりない」、「まったくない」の否定的な割合が増加している。しかし、学年が上がるにつれて否定的な割合が減少する傾向にあり、高等学校では、「よくある」と回答した割合が20%を超えている。

「あまりない」、「まったくない」を合わせた割合

小 57.6%(7.5% 増加)

中 47.6%(4.9% 増加)

高 32.7%(1.5% 増加)

特 57.2%(13.8% 増加)

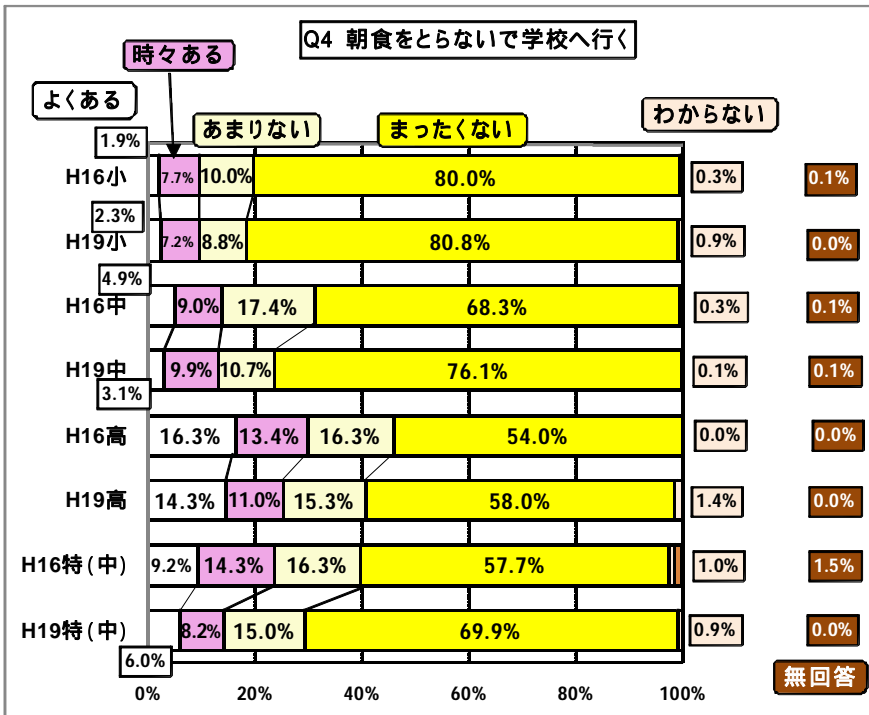
()は16年度調査との差

【本調査との関連項目】

P42 学級担任1「朝から疲労感の子ども」

児童生徒4 朝食をとらないで学校へ行く

⇒ 中・特別支援学校で「朝食を必ずとって登校する」割合が増加
小・中・高・特
Q4・Q4・Q4・Q4



【概要】

16年度調査と比較して、「まったくない」の割合が、中・特別支援学校で増加している。中・特別支援学校では朝食を摂取する割合が増加している。

【参考】

○19年度全国学力・学習状況調査

(文部科学省)

朝食を毎日食べていますか。

(全国、国・公・私立) (%)

	小6	中3
している	86.3	80.6
どちらかといえば、している	8.9	11.1
あまりしていない	4.0	6.0
全くしていない	0.8	2.3

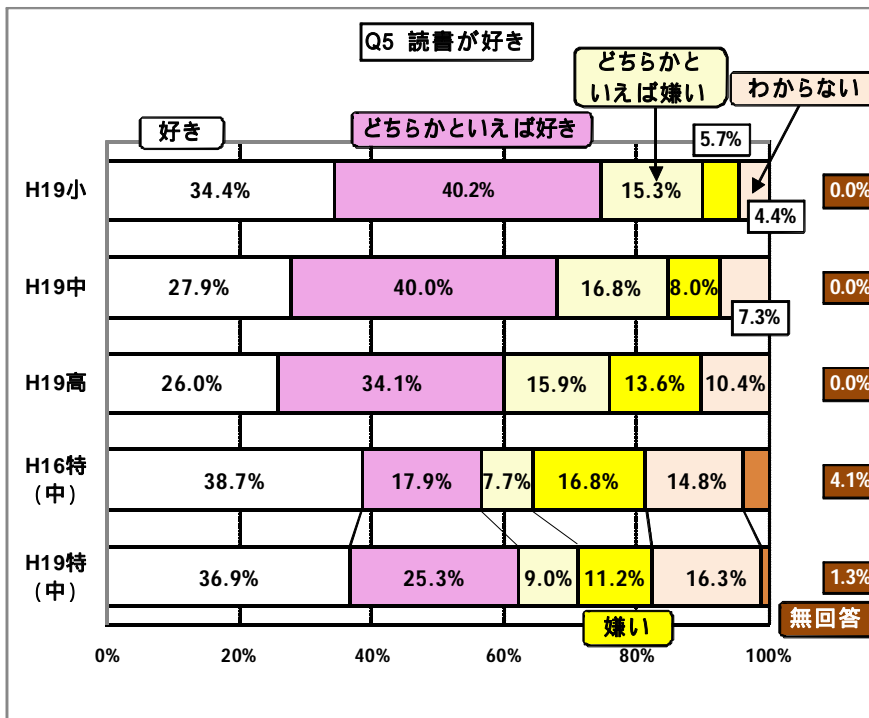
【本調査との関連項目】

P42 学級担任1「朝から疲労感の子ども」

児童生徒 5 読書が好き

⇒ 各校種で肯定的な割合が、否定的な割合を上回る

小・中・高・特
Q5・Q5・Q5・Q5



【概要】

各校種で肯定的な割合が、否定的な割合を上回るが、学年が上がるにつれて、否定的な割合が増加している。

【参考】

○19年度全国学力・学習状況調査 (文部科学省)

読書は好きですか。

(全国、国・公・私立) (%)

	小6	中3
当てはまる	45.5	43.5
どちらかといえば、当てはまる	25.8	24.7
どちらかといえば、当てはまらない	17.7	18.8
当てはまらない	10.8	13.0
その他	0	0.1
無回答	0.1	0.2

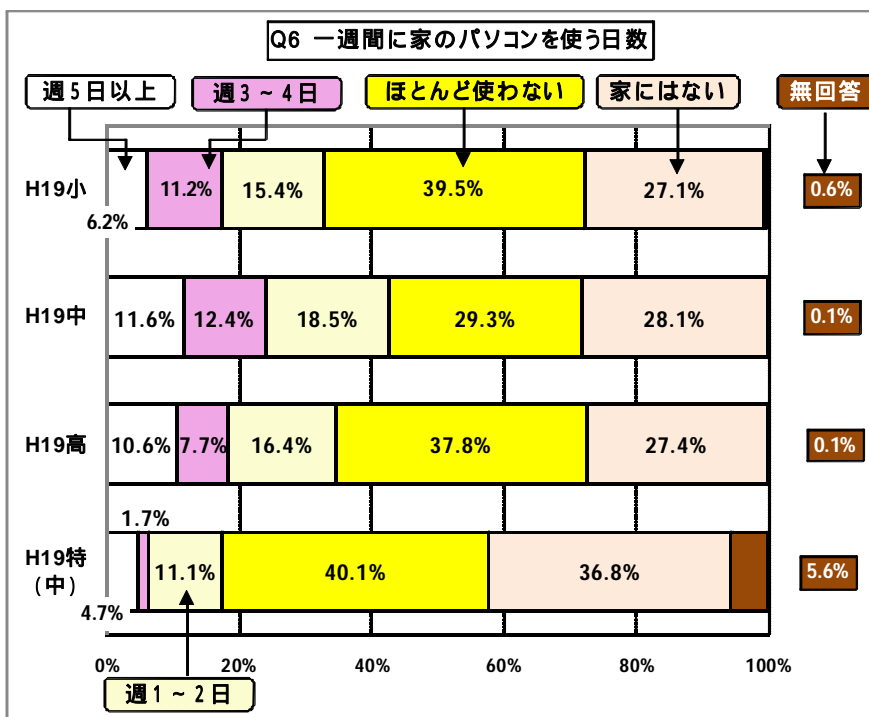
【本調査との関連項目】

- P25 保護者4「読書好き」
- P26 保護者5「読み聞かせ」
- P53 学級担任23「子どもと読書」

児童生徒 6 一週間に家のパソコンを使う日数

⇒ 中・高等学校では、5日以上使用する生徒の割合が10%以上 Q6・Q6・Q6・Q6

小・中・高・特



【概要】

中・高等学校でパソコンを5日以上使用する生徒の割合は10%を超えている。その一方、ほとんど使用しない児童生徒の割合は、各校種ともに約30%以上である。

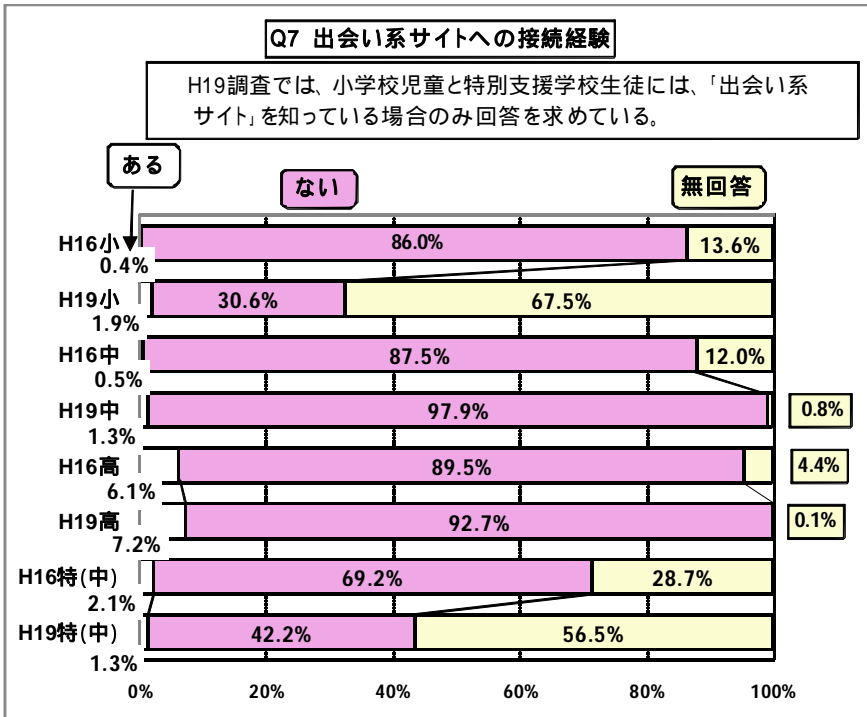
【本調査との関連項目】

- P23 児童生徒37「パソコンの用途」
- P26 保護者6「パソコンや携帯電話についての話し合い」
- P56 学級担任29「情報モラルの指導の有無」

児童生徒 7 出会い系サイトへの接続の経験

⇒ 16年度調査と比較して大きな変化なし

小・中・高・特
Q7・Q7・Q7・Q7



【概要】

16年度調査との大きな変化は見られない。また、小・特別支援学校では、「出会い系サイト」を知っている児童生徒の割合が、30%以上と推測される。

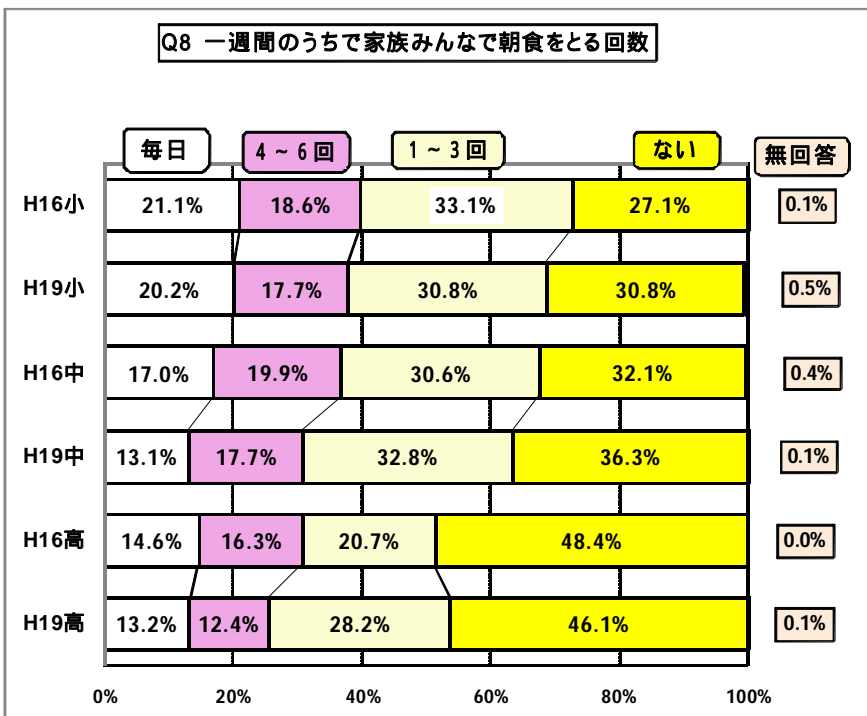
【本調査との関連項目】

- P26 保護者6「パソコンや携帯電話についての話し合い」
- P56 学級担任29「情報モラルの指導の有無」

児童生徒 8 一週間のうちで家族みんなで朝食をとる回数

⇒ 特に中学校で「家族みんなで毎日とる」割合が減少

小・中・高
Q8・Q8・Q8



【概要】

各校種ともに、「家族みんなで毎日とる」の割合が減少し、特に中学校でその傾向が顕著となっている。また、「家族みんなで朝食をとることがない」の回答の割合が小・中学校で増加している。

【参考】

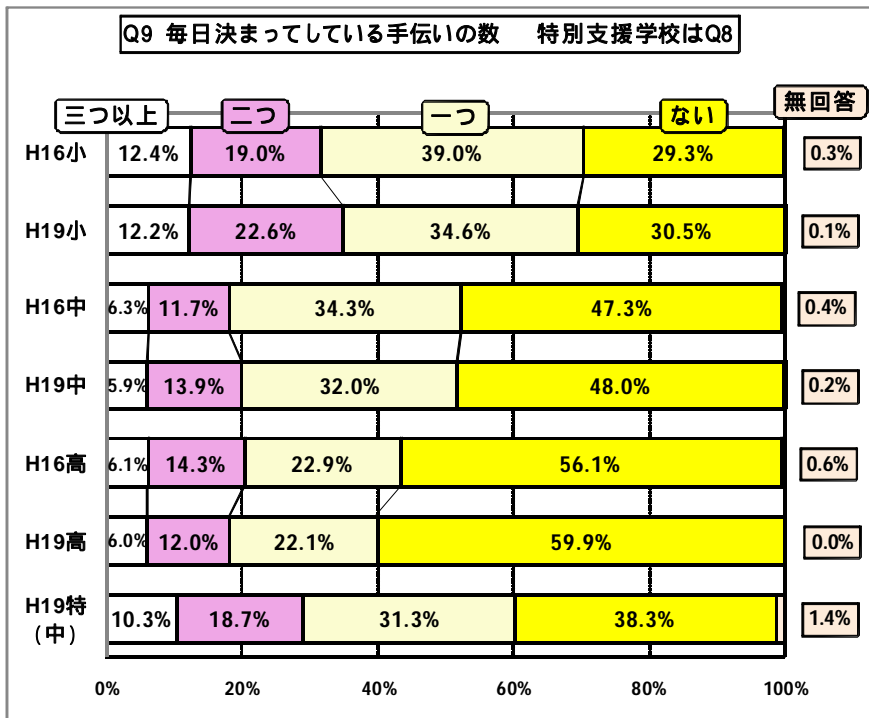
【本調査との関連項目】

- P6 児童生徒4「朝食の摂取」

児童生徒9 毎日決まっしている手伝いの数

⇒ 学年が上がるにつれて，手伝いをしなくなる傾向

小・中・高・特
Q9・Q9・Q9・Q8



【概要】

16年度調査と同様に，小・中・高等学校では，学年が上がるにつれて，手伝いをしなくなる傾向にある。特別支援学校では，60%程度の生徒が何らかの手伝いをしている。

【参考】

○低年齢少年の生活と意識に関する調査
(平成19年 内閣府)

あなたは，家の手伝いをすることがありますか

	小5	中2
よくある	18.3	15.3
ときどきある	51.5	48.8
あまりない	25.6	28.0
ない	4.6	11.8

(%)

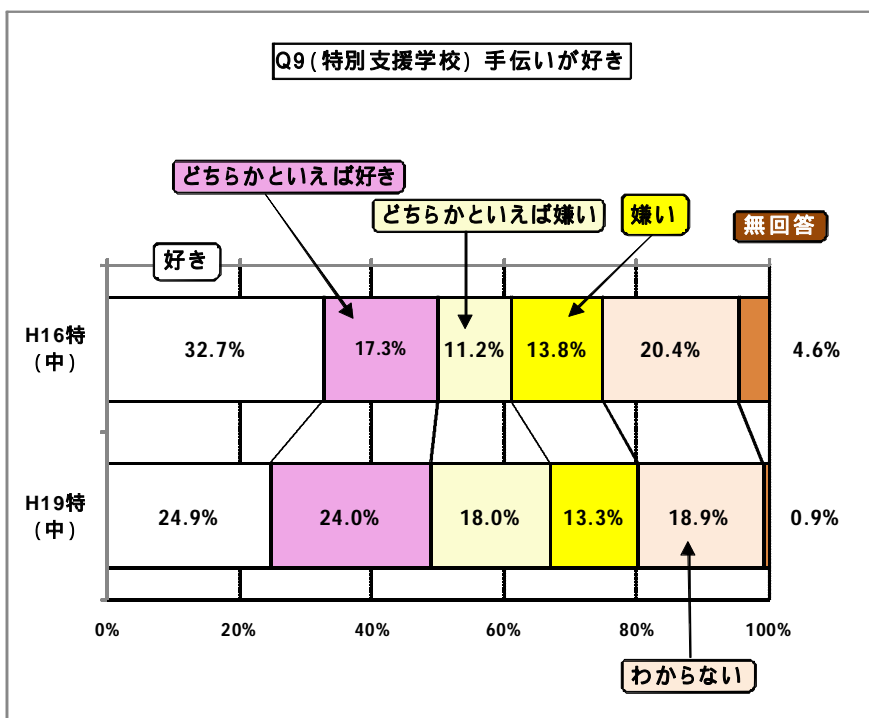
【本調査との関連項目】

P9 児童生徒10「手伝いが好き」

児童生徒10 手伝いが好き

⇒ 「好き」の割合が減少

特
Q9



【概要】

「好き」あるいは「どちらかといえば好き」という肯定的な割合は，16年度調査と比較して大きな変化は見られないが，「好き」と回答した割合が減少している。その一方「どちらかといえば嫌い」と回答した割合が増加している。

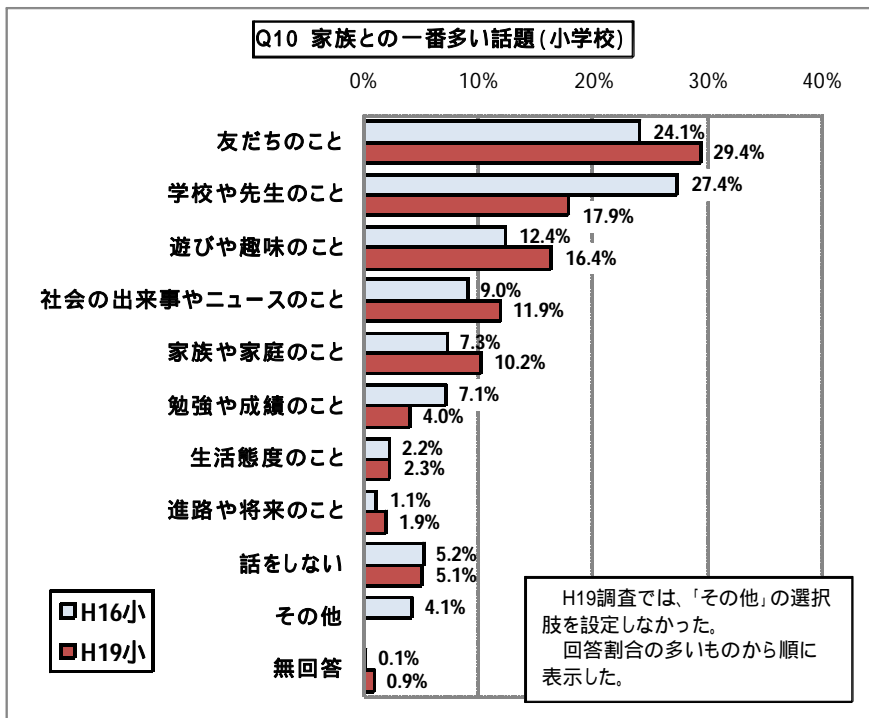
【本調査との関連項目】

P9 児童生徒9「毎日している手伝い」

児童生徒11 家族との一番多い話題（小学校）

小
Q10

⇒ 「学校や先生のこと」が大きく減少



【概要】

16年度調査と比較して、回答割合の順位に違いがない。回答割合の変化に着目すると、「学校や先生のこと」が、10%程度減少している。その一方、「友だちのこと」、「遊びや趣味のこと」等の回答割合が増加している。

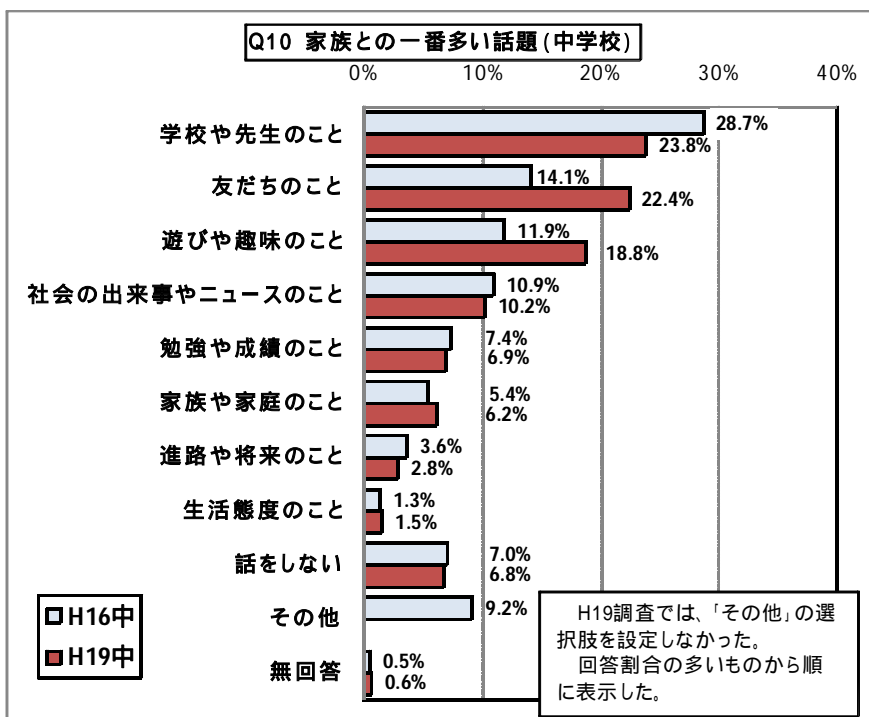
【本調査との関連項目】

P10～11 児童生徒12・13「家族との話題」
P45 学級担任7「親子の対話」

児童生徒12 家族との一番多い話題（中学校）

中
Q10

⇒ 「友だちのこと」、「遊びや趣味のこと」が増加



【概要】

16年度調査と比較して、回答割合の順位に違いがない。回答割合の変化に着目すると、「友だちのこと」、「遊びや趣味のこと」の割合が、それぞれ増加している。その一方「学校や先生のこと」が減少している。

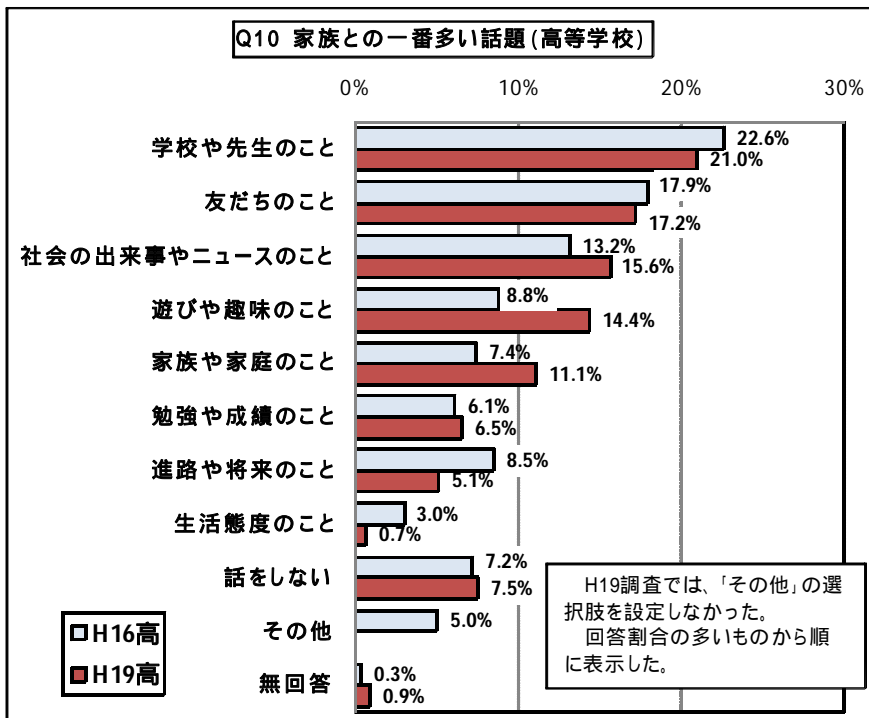
【本調査との関連項目】

P10～11 児童生徒11・13「家族との話題」
P45 学級担任7「親子の対話」

児童生徒13 家族との一番多い話題（高等学校）

⇒ 「遊びや趣味のこと」が増加

高
Q10



【概要】

16年度調査と比較して、回答割合の順位に違いがない。回答割合の変化に着目すると、「遊びや趣味のこと」等の割合が増加している。

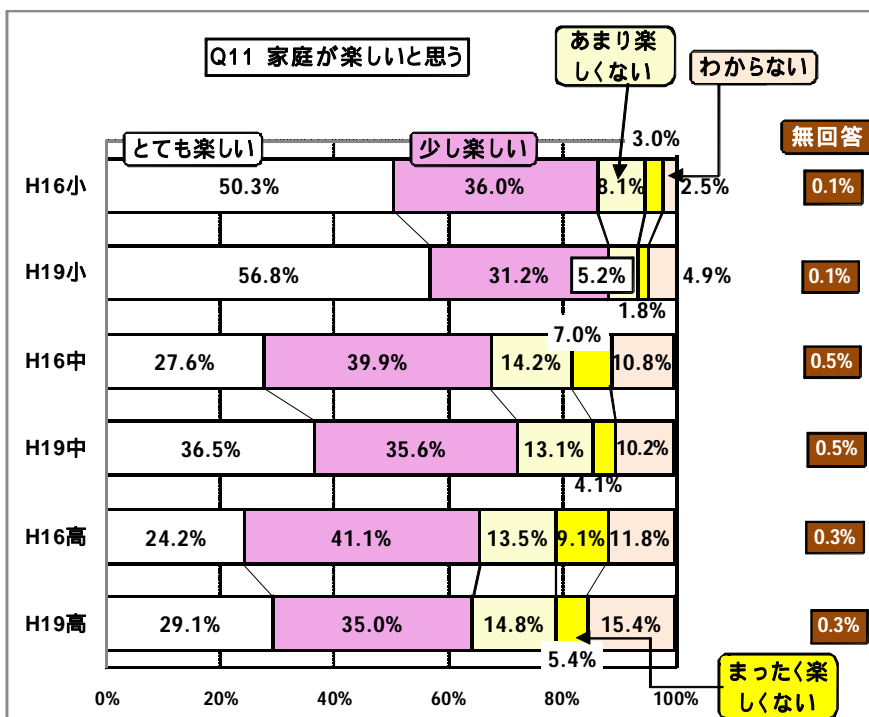
【本調査との関連項目】

- P10～11 児童生徒11・12「家族との話題」
- P45 学級担任7「親子の対話」

児童生徒14 家庭が楽しいと思う

⇒ 各校種で、「とても楽しい」が増加

小・中・高
Q11・Q11・Q11



【概要】

各校種で、「とても楽しい」の割合が増加し、特に中学校において顕著である。また、「まったく楽しくない」の割合が、各校種ともに減少している。

【参考】

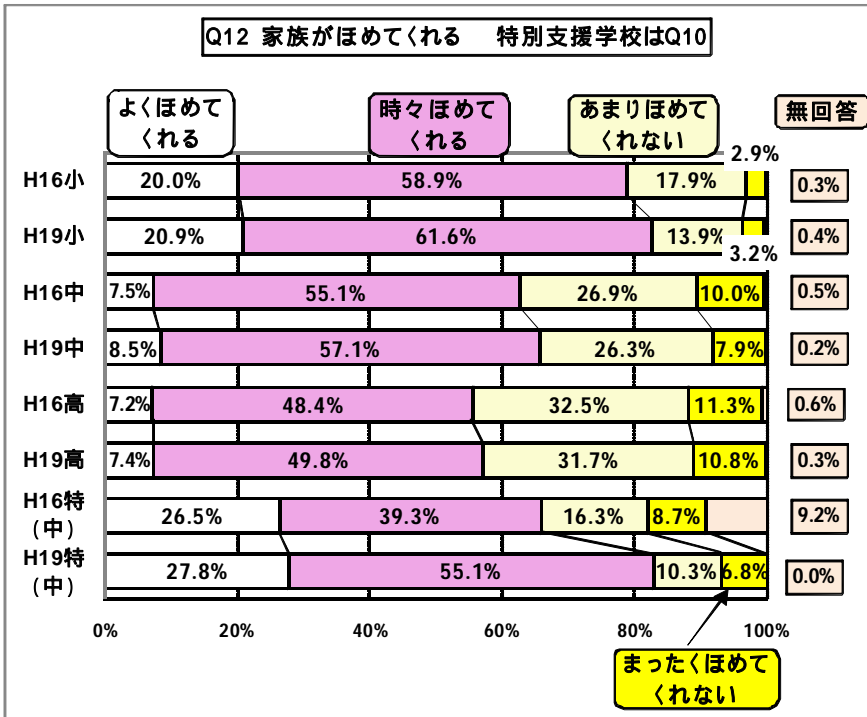
○低年齢少年の生活と意識に関する調査
(平成19年 内閣府)
あなたは、自分の家庭が楽しいですか(%)

	小5	中2
楽しい	82.0	59.8
まあ楽しい	17.3	38.4
あまり楽しくない	0.3	3.5
楽しくない	0.5	0.3

児童生徒15 家族がほめてくれる

⇒ 特別支援学校で，肯定的な割合が増加

小・中・高・特
Q12・Q12・Q12・Q10



【概要】

16年度調査と比較して、「ほめてくれる」という肯定的な割合が，各校種ともに増加している。特に特別支援学校で大きく増加している。

肯定的な割合

小 82.5%(3.6% 増加)

中 65.6%(3.0% 増加)

高 57.2%(1.6% 増加)

特 82.9%(17.1% 増加)

()は16年度調査との差

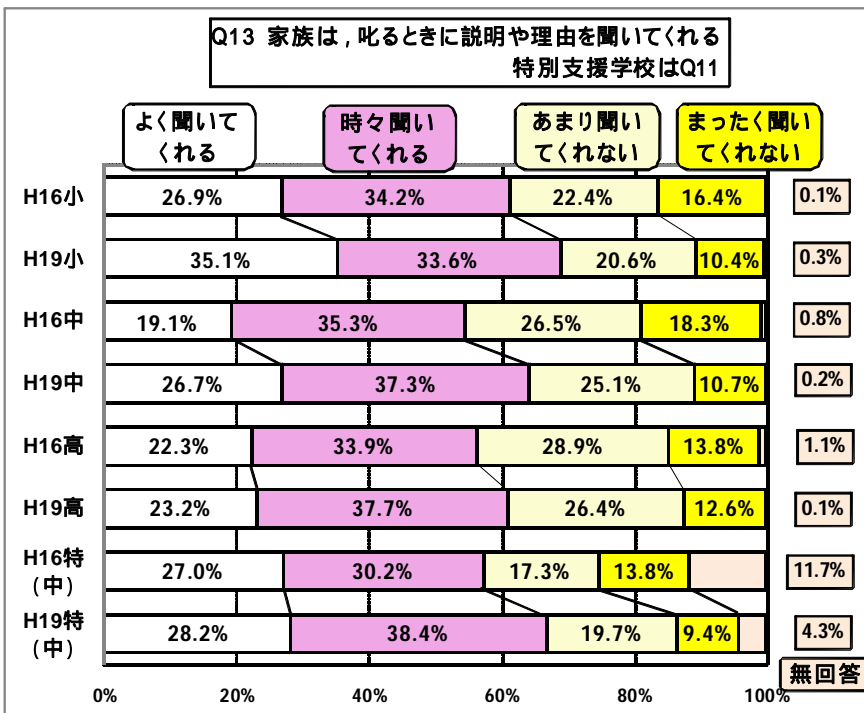
【本調査との関連項目】

P27 保護者8「子どもをほめている」

児童生徒16 家族は，叱るときに説明や理由を聞いてくれる

⇒ 各校種で，肯定的な割合が増加

小・中・高・特
Q13・Q13・Q13・Q11



【概要】

「聞いてくれる」という肯定的な割合が，16年度調査と比較して各校種ともに増加している。また，「まったく聞いてくれない」の割合が，特に中学校で減少している。

肯定的な割合

小 68.7%(7.6% 増加)

中 64.0%(9.6% 増加)

高 60.9%(4.7% 増加)

特 66.6%(9.4% 増加)

()は16年度調査との差

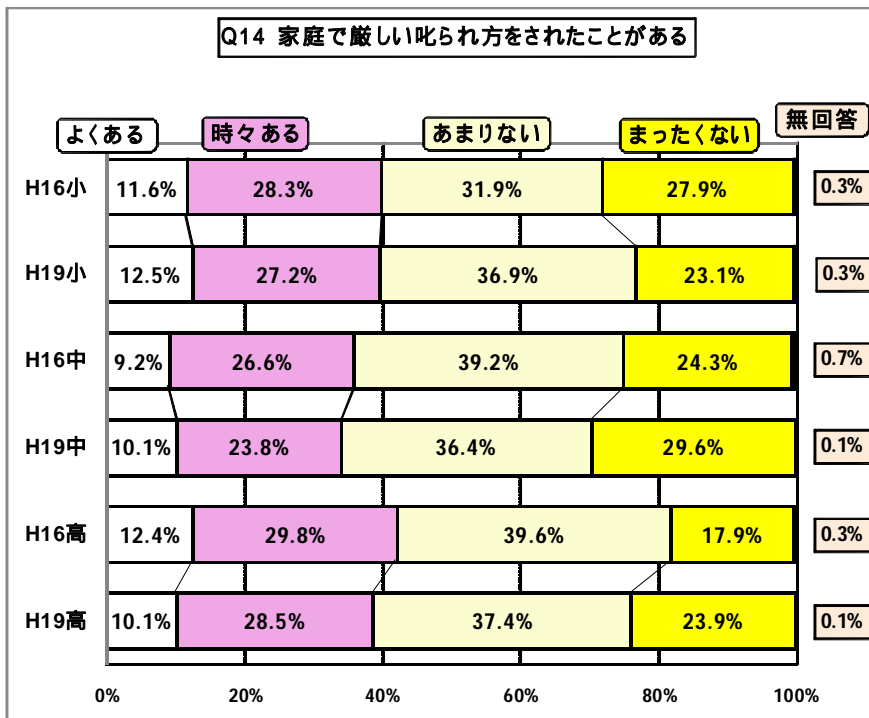
【本調査との関連項目】

P28 保護者9「叱る際に理由を聞く」

児童生徒17 家庭で厳しい叱られ方をされたことがある

⇒ 厳しく叱られた経験は，学年が上がるにつれて増加

小・中・高
Q14・Q14・Q14



【概要】

各校種ともに、「厳しく叱られた経験がある」と肯定的に回答した割合は，16年度調査とほぼ同じ傾向となっている。

肯定的な割合

小 39.7% (39.9%)

中 33.9% (35.8%)

高 38.6% (42.2%)

()は16年度調査の肯定的な割合

【本調査との関連項目】

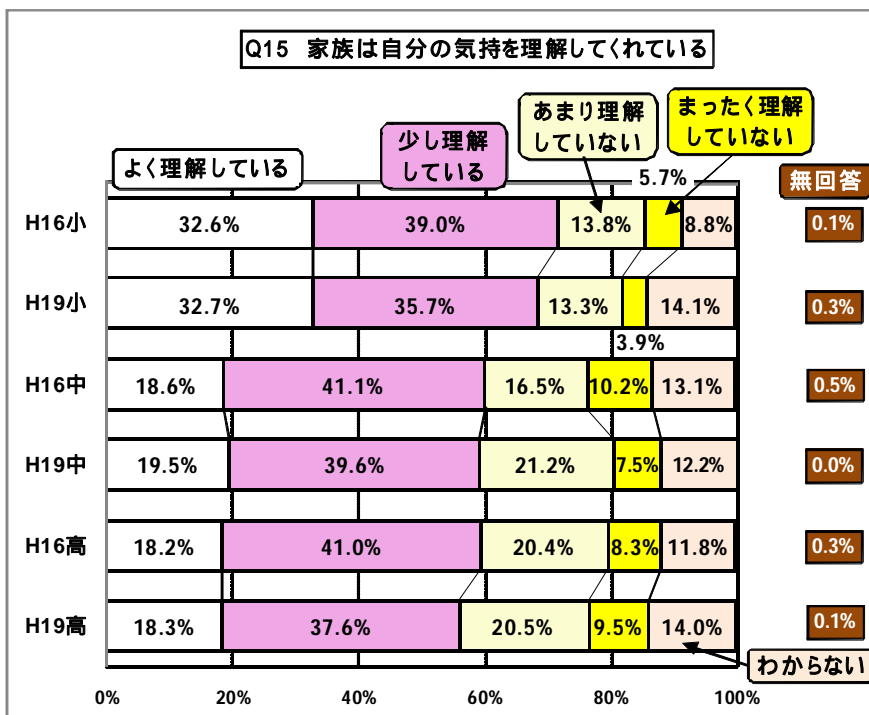
P28 保護者10「児童虐待観」

P43 学級担任3「厳しく叱られている子ども」

児童生徒18 家族は自分の気持ちを理解してくれている

⇒ 学年が上がるにつれて，肯定的な割合が減少

小・中・高
Q15・Q15・Q15



【概要】

小学校では，肯定的な割合が，ほぼ70%であり，中・高等学校に比較してその割合が多い。また，16年度調査と比較して，学年が上がるにつれて肯定的な割合が減少する傾向が見られる。

肯定的な割合

小 68.4%(3.2% 減少)

中 59.1%(0.6% 減少)

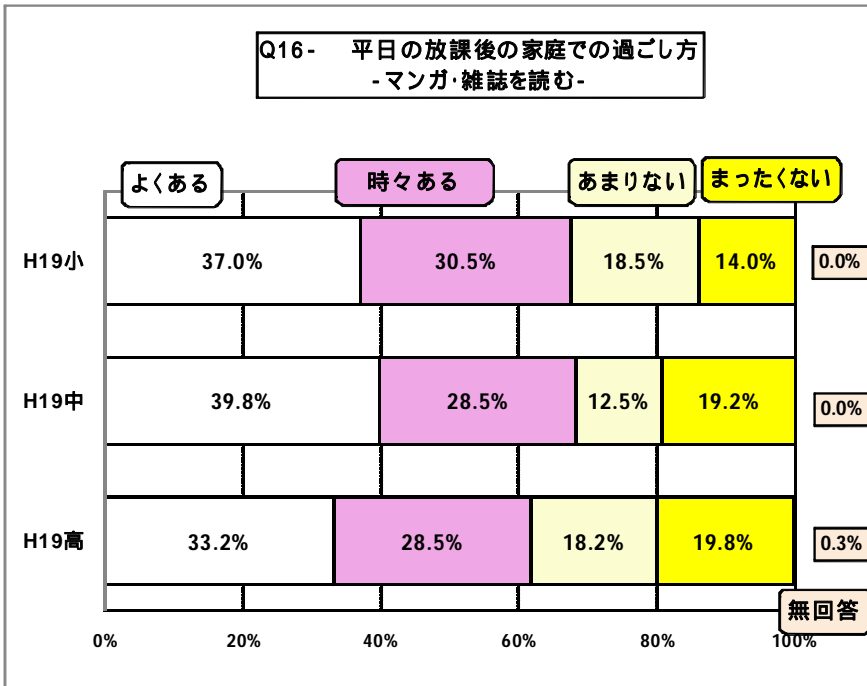
高 55.9%(3.3% 減少)

【本調査との関連項目】

P29 保護者11「子どもの気持ちの理解」

児童生徒19 平日の放課後の家庭での過ごし方
 - マンガ，雑誌を読む -
 ⇒ 小・中学校で，肯定的な割合が約70%

小 ・ 中 ・ 高
 Q16- ・ Q16- ・ Q16-



【概要】

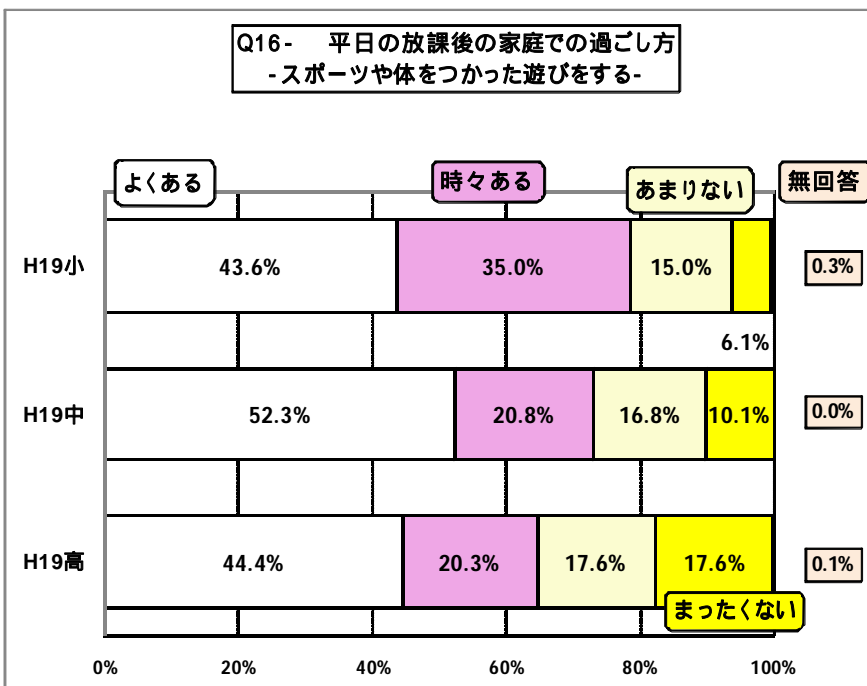
小・中・高等学校ともに，「ある」と肯定的に回答した割合が60%以上となっている。校種別に見ると，小・中学校では肯定的な割合が，ほぼ70%になっている。その一方，高等学校では否定的な割合がほぼ40%となっている。

【本調査との関連項目】

P14～15 児童生徒20・21「放課後の過ごし方」

児童生徒20 平日の放課後の家庭での過ごし方
 - スポーツや体をつかった遊びをする -
 ⇒ 学年が上がるにつれて，否定的な割合が増加

小 ・ 中 ・ 高
 Q16- ・ Q16- ・ Q16-



【概要】

肯定的な割合は，小・中学校で70%を超えている。学年が上がるにつれて否定的な割合が増加している。

【参考】

○19年度全国学力・学習状況調査
 (文部科学省)
 外に出て遊んだり，運動・スポーツをして体を動かしたりしていますか。
 (全国，国・公・私立) (%)

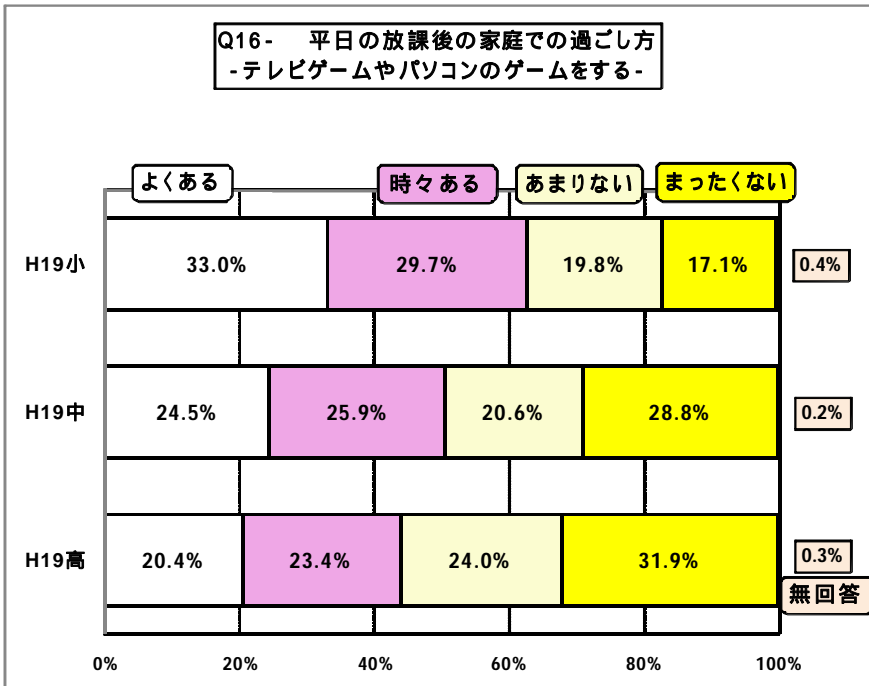
	小6	中3
している	58.3	62.5
どちらかといえば，している	22.7	12.4
あまりしていない	15.6	15.3
全くしていない	3.3	9.5
その他	0.1	0
無回答	0.1	0.3

【本調査との関連項目】

P14～15 児童生徒19・21「放課後の過ごし方」
 P20 児童生徒32「運動好き」

児童生徒21 平日の放課後の家庭での過ごし方
 - テレビゲームやパソコンのゲームをする -
 ⇒ 学年が進むにつれて、しなくなる傾向

小 ・ 中 ・ 高
 Q16- ・ Q16- ・ Q16-



【概要】

小学校では、肯定的な割合が60%を超えている。学年が上がるにつれて、否定的な割合が増加する傾向にある。

【参考】

○義務教育に関する意識調査

(平成17年 文部科学省)

平日(学校がある日)、テレビゲームやパソコンゲームをする時間(%)

	小5	中2
ほとんどしない	33.4	30.7
30分くらい	18.3	7.8
1時間くらい	19.4	11.7
1時間30分くらい	9.2	7.7
2時間くらい	7.2	14.2
2時間30分くらい	2.8	4.7
3時間くらい	1.8	7.3
3時間以上	5.8	15.5
無答・不明	2.1	0.3

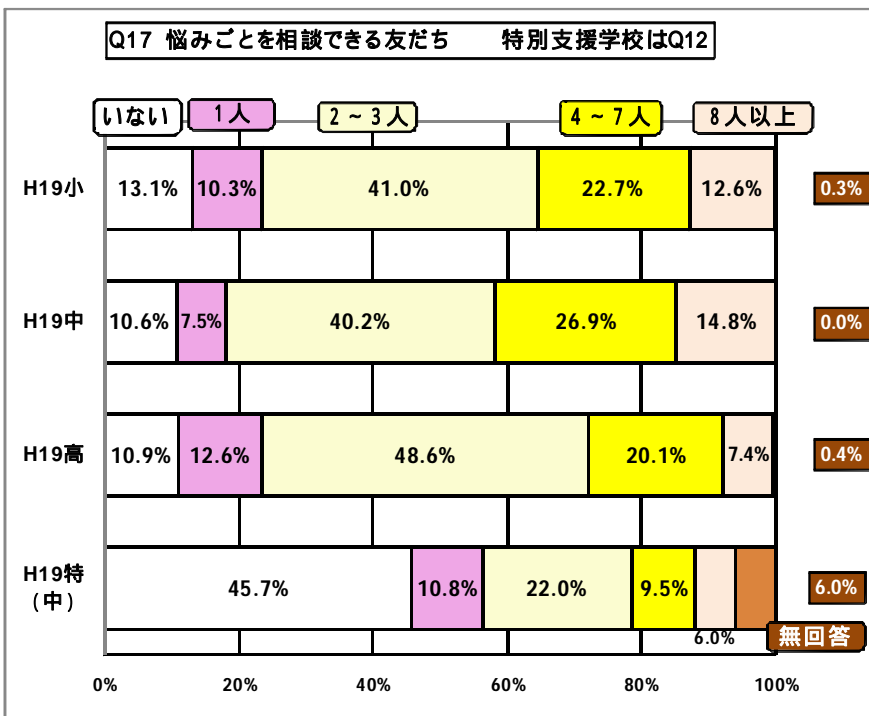
【本調査との関連項目】

P14 児童生徒19・20「放課後の過ごし方」

児童生徒22 悩みごとを相談できる友だち

⇒ 小・中・高等学校で、「いない」の割合が10%以上

小 ・ 中 ・ 高 ・ 特
 Q17 ・ Q17 ・ Q17 ・ Q12



【概要】

各校種ともに「2~3人」の割合が最も多い。その一方、小・中・高等学校において、「相談できる友だちがいない」と回答した割合が、小・中・高等学校では10%以上となっている。なお、特別支援学校では、「相談できる友だちがいない」と回答した割合が各校種に比較して非常に多いが、相談の相手が父母や教師などであることが考えられる。

【本調査との関連項目】

P33 保護者20「子どもの人間関係の希薄化」

P43 学級担任4「子どもの人間関係の希薄化」

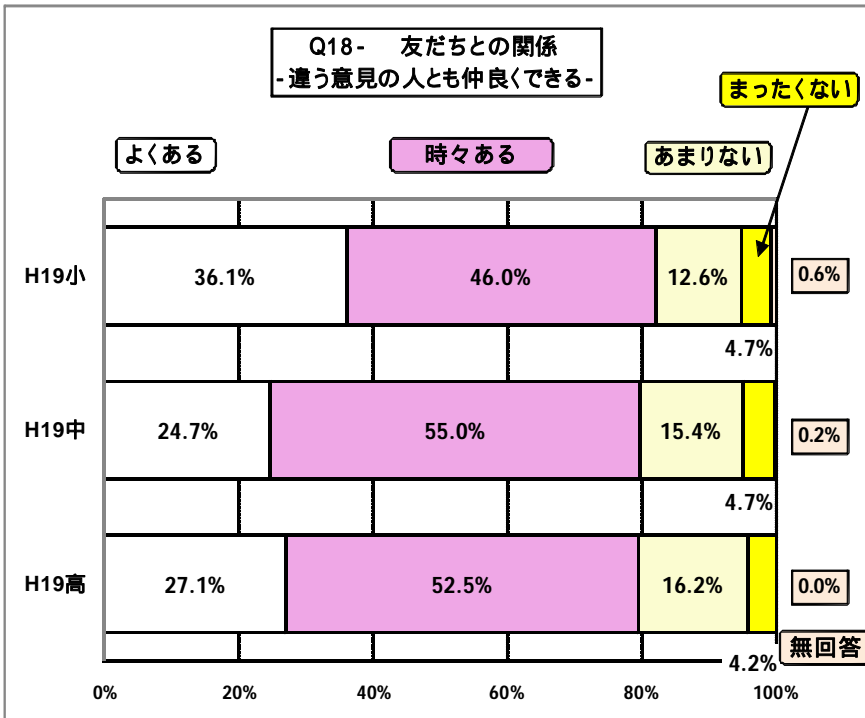
児童生徒23 友だちとの関係

- 違う意見の人でも仲良くできる -

⇒ 小・中・高等学校ともに、肯定的な割合が約80%

小 ・ 中 ・ 高

Q18- ・ Q18- ・ Q18-



【概要】

小・中・高等学校ともに肯定的な割合がほぼ80%になっている。また、小学校では、「よくある」の割合が、中・高等学校に比較して多い。なお、他の「友だちとの関係」との質問項目における肯定的な割合と比較すると、各校種ともに肯定的な割合が最も多い結果となっている。

【本調査との関連項目】

- P16～18 児童生徒24～27「友だちとの関係」
- P33 保護者20「子どもの人間関係の希薄化」
- P43 学級担任4「子どもの人間関係の希薄化」

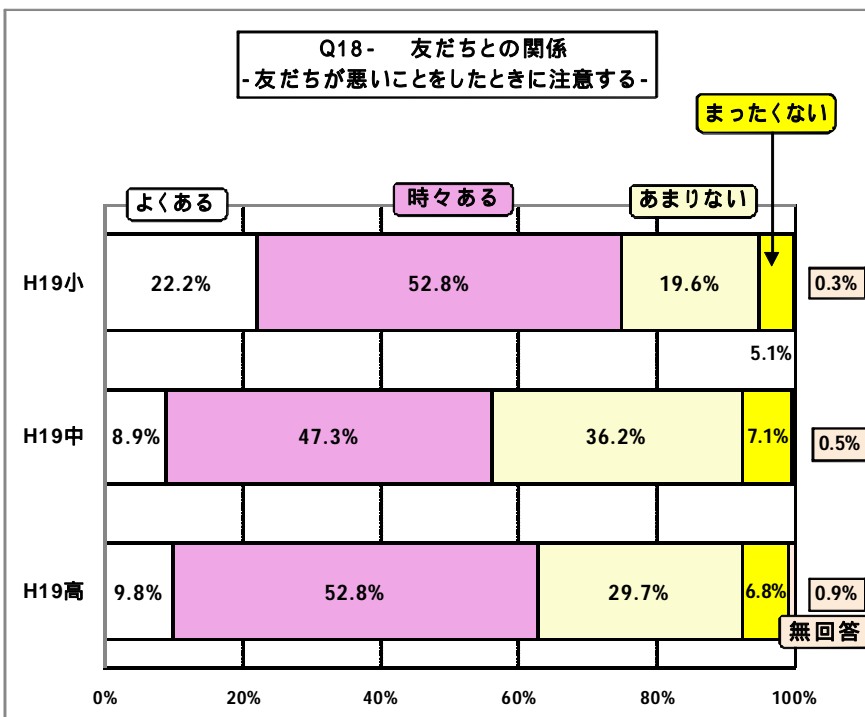
児童生徒24 友だちとの関係

- 友だちが悪いことしたときに注意する -

⇒ 中学校が最も消極的傾向

小 ・ 中 ・ 高

Q18- ・ Q18- ・ Q18-



【概要】

小・中・高等学校ともに、肯定的な割合が否定的な割合を上回っている。特にその傾向が小学校で見られる。一方中学校では、小・高等学校と比較すると否定的な割合が多く、小学校との大きな違いがある。

【本調査との関連項目】

- P16～18 児童生徒23・25～27「友だちとの関係」
- P33 保護者20「子どもの人間関係の希薄化」
- P43 学級担任4「子どもの人間関係の希薄化」

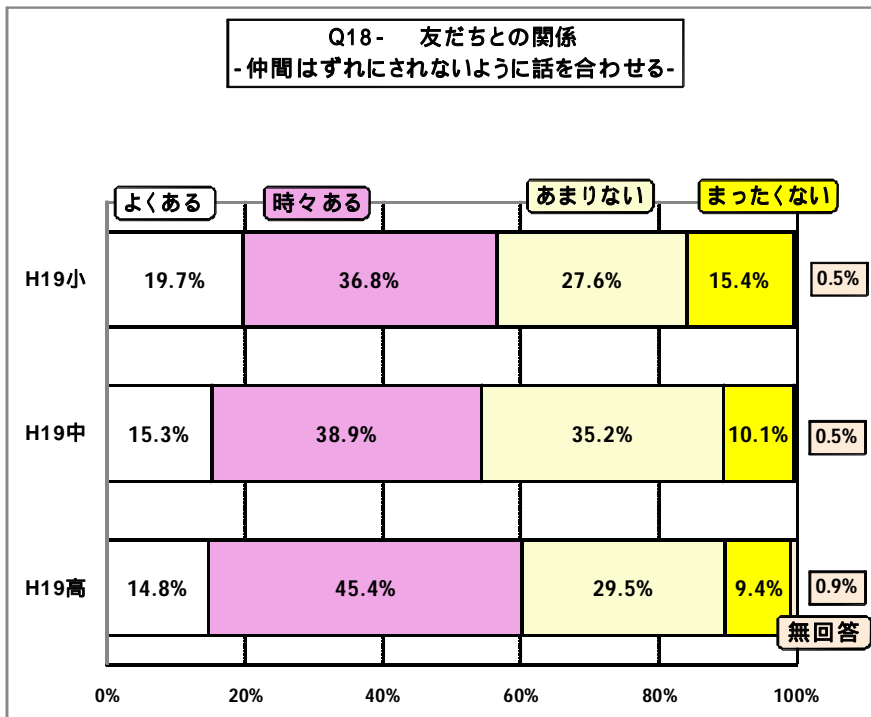
児童生徒25 友だちとの関係

- 仲間はずれにされないように話を合わせる -

⇒ 各校種ともに、肯定的割合が否定的割合を上回る

小 ・ 中 ・ 高

Q18- ・ Q18- ・ Q18-



【概要】

小・中・高等学校ともに、肯定的な割合が否定的な割合を上回っている。小・中学校は、高等学校に比較して否定的な割合が多い結果となっている。

【本調査との関連項目】

- P16～18 児童生徒22～24・26・27「友だちとの関係」
- P33 保護者20「子どもの人間関係の希薄化」
- P43 学級担任4「子どもの人間関係の希薄化」

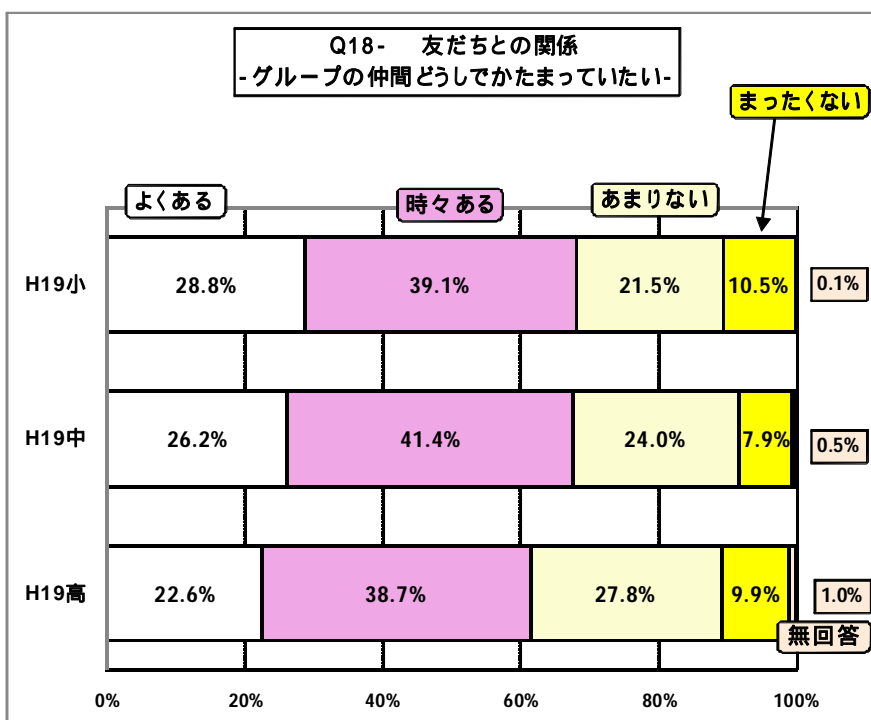
児童生徒26 友だちとの関係

- グループの仲間どうしてかたまっていたい -

⇒ 小・中・高等学校ともに、肯定的な割合が60%以上

小 ・ 中 ・ 高

Q18- ・ Q18- ・ Q18-



【概要】

小・中・高等学校ともに、肯定的な割合が60%以上である。その中で、小・中学校は、高等学校に比較して肯定的な割合が多い結果となっている。

【本調査との関連項目】

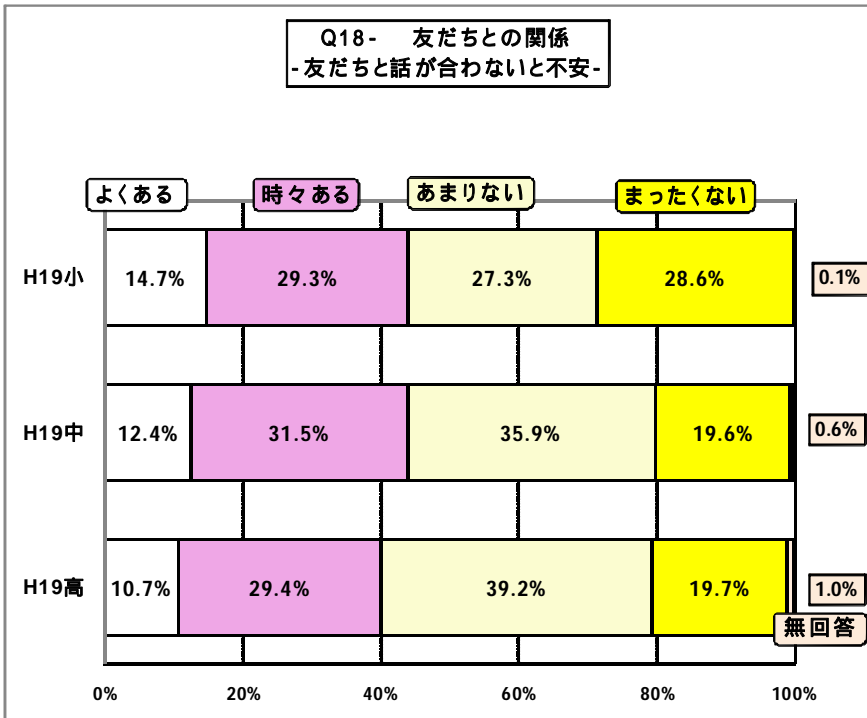
- P16～18 児童生徒22～25・27「友だちとの関係」
- P33 保護者20「子どもの人間関係の希薄化」
- P43 学級担任4「子どもの人間関係の希薄化」

児童生徒27 友だちとの関係

- 友だちと話が合わないと不安になる -

⇒ 小・中・高等学校ともに、否定的な割合が50%以上

小 ・ 中 ・ 高
Q18- ・ Q18- ・ Q18-



【概要】

小・中・高等学校ともに否定的な割合がほぼ60%になっている。なお、他の「友だちとの関係」との質問項目における肯定的な割合と比較すると、各校種ともに肯定的な割合が最も少ない結果となっている。

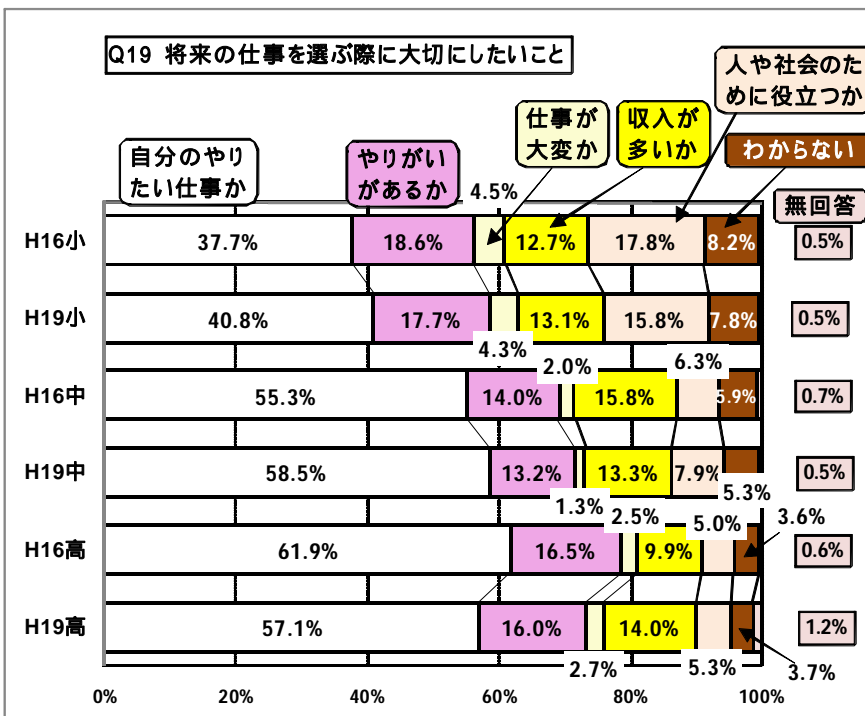
【本調査との関連項目】

- P16～18 児童生徒22～26「友だちとの関係」
- P33 保護者20「子どもの人間関係の希薄化」
- P43 学級担任4「子どもの人間関係の希薄化」

児童生徒28 将来の仕事を選ぶ際に大切にしたいこと

⇒ 高等学校において「やりたい仕事か」が減少

小 ・ 中 ・ 高
Q19 ・ Q19 ・ Q19



【概要】

16年度調査と同様に、小・中・高等学校ともに、「やりたい仕事か」が最も多い。その中で、高等学校においてはその割合が減少している。

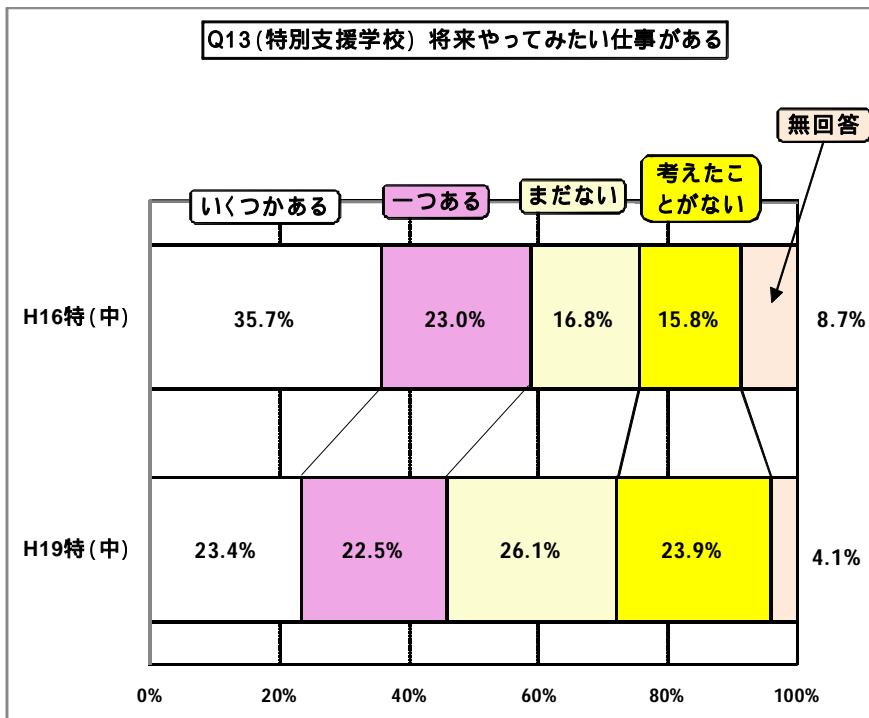
【本調査との関連項目】

- P19 児童生徒29「将来やってみたい仕事」
- P38～40 保護者30・31「子どもが職業を選ぶ際に大切にしたいこと」

児童生徒29 将来やってみたい仕事がある

⇒ 否定的な割合が増加

特
Q13



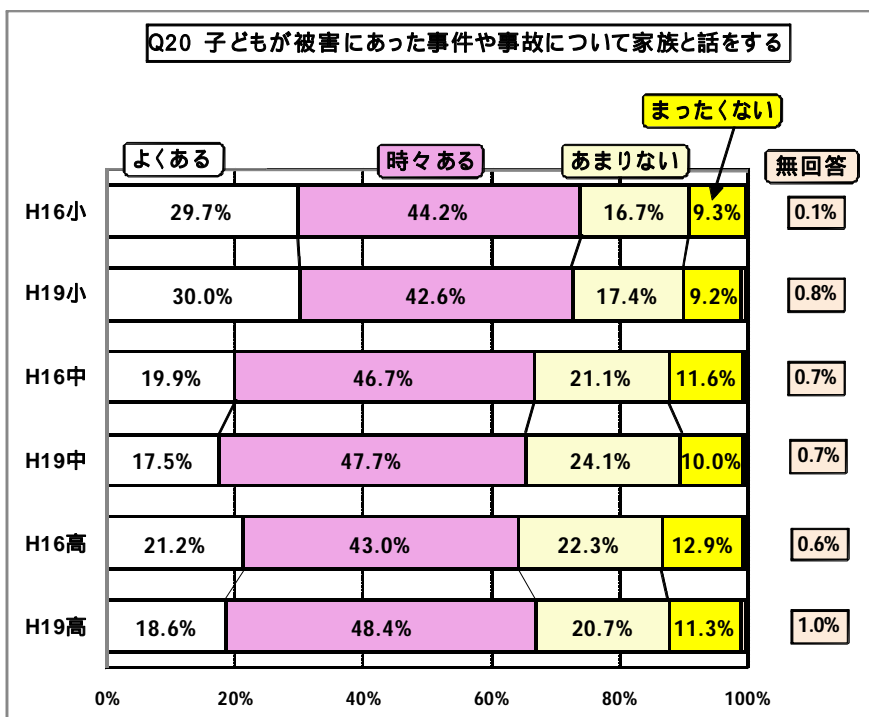
【概要】

「まだない」、「考えたことがない」の否定的な割合が増加している。また、「いくつかある」の割合が減少している。

児童生徒30 子どもが被害にあった事件や事故について家族と話をする

⇒ 各校種ともに、16年度調査と同様の傾向

小・中・高
Q20・Q20・Q20



【概要】

16年度調査と同様に、小・中・高等学校ともに、肯定的割合が、否定的割合を上回っている。16年度調査で見られた、学年が上がるにつれて肯定的な割合が減少する傾向は、今回の調査では顕著には表れていない。

【本調査との関連項目】

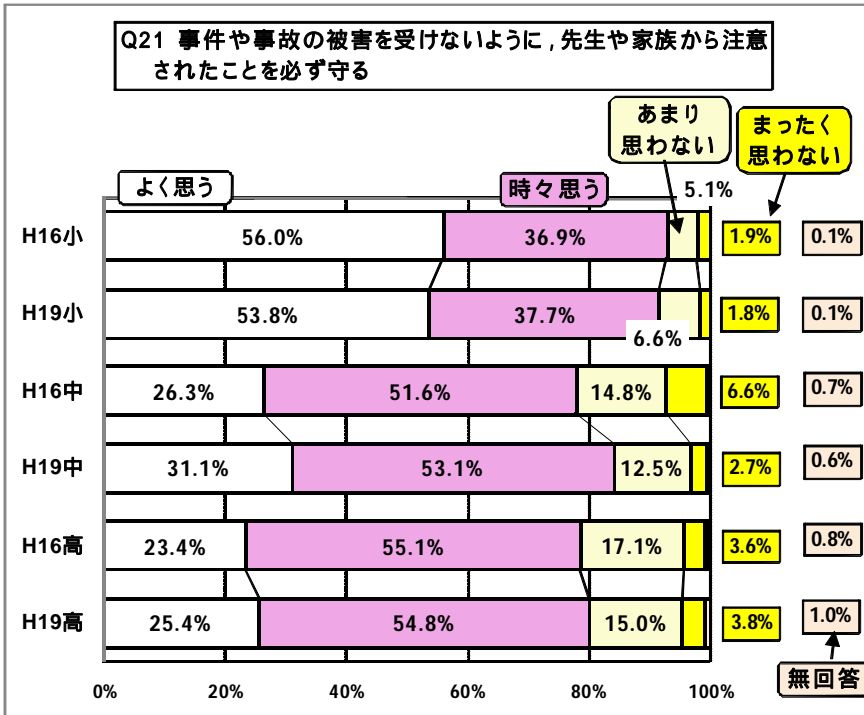
P40 保護者34「事件、事故についての子どもとの話し合い」

児童生徒31 事件や事故の被害を受けないように、先生や家族から注意されたことを必ず守る

小・中・高

⇒ 学年が上がるにつれて、肯定的な割合が減少

Q21・Q21・Q21



【概要】

16年度調査と比較して、学年が上がるにつれて、肯定的な割合が減少する傾向が見られる。また、16年度調査と比較して、小・高等学校は、回答割合に大きな変化はないが、中学校では肯定的な割合が増加している。

【本調査との関連項目】

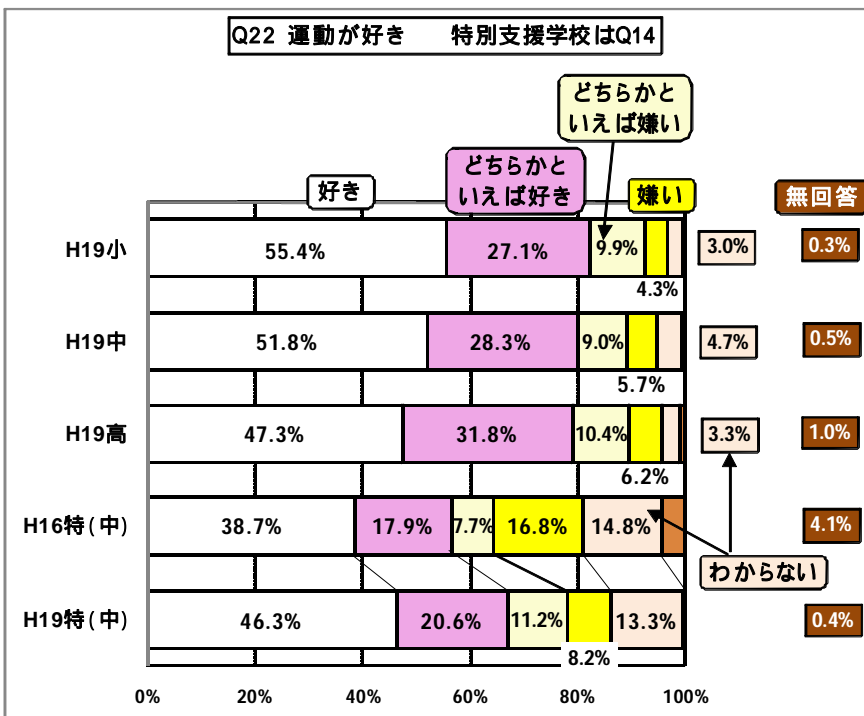
P41 保護者35「事件，事故防止の約束」

児童生徒32 運動が好き

小・中・高・特

⇒ 小・中・高等学校で肯定的な割合が約80%

Q22・Q22・Q22・Q14



【概要】

小・中・高等学校で肯定的な割合が、ほぼ80%であり、各選択肢の割合も同程度である。特別支援学校では、肯定的な割合が約10%増加した。

【参考】

○19年度全国学力・学習状況調査 (文部科学省)
スポーツをすることが好きですか (全国，国・公・私立) (%)

	小6	中3
当てはまる	63.8	60.3
どちらかといえば、当てはまる	21.1	21.9
どちらかといえば、当てはまらない	10.8	11.2
当てはまらない	4.5	6.5
無回答	0.1	0.1

【本調査との関連項目】

P14 児童生徒20「放課後の過ごし方」

P25 保護者3「子どもとスポーツや遊びをする」

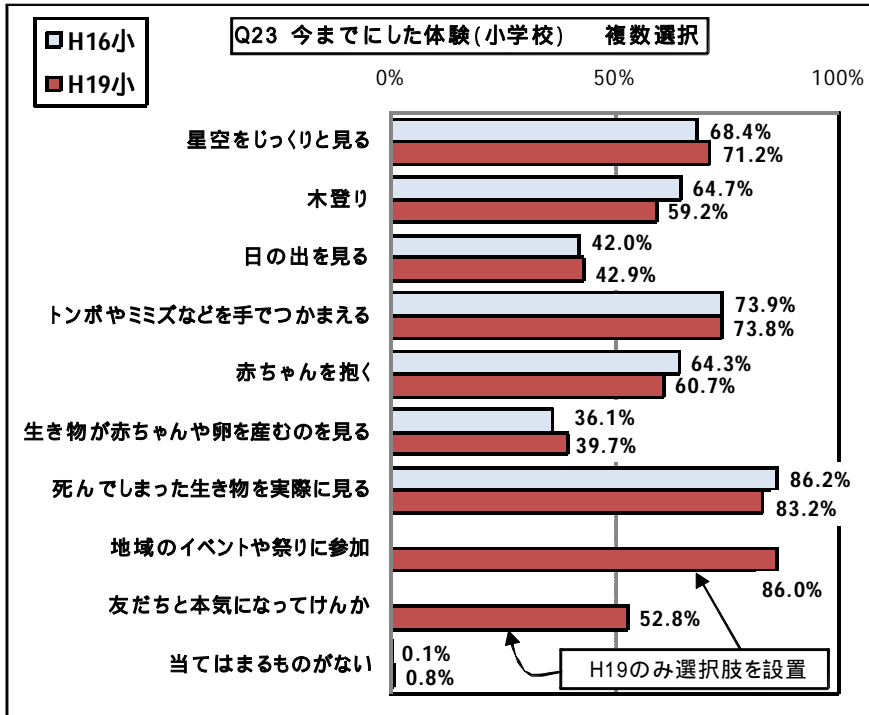
自分の実態に合うものを複数選択(児童生徒33~37)

児童生徒33 今までにした体験(小学校)

小

⇒ 最も少ない割合は、「生き物が赤ちゃんや卵を産むのを見る」

Q23



【概要】

回答の割合が50%以下は、「生き物が赤ちゃんや卵を産むのを見る」と、「日の出を見る」であり、16年度調査と同様の結果となっている。他の内容の割合も16年度調査と大きな変化は見られない。今回新たに設問した「地域行事への参加」と「友だちとけんか」は、中・高等学校と同程度の割合となっている。

【本調査との関連項目】

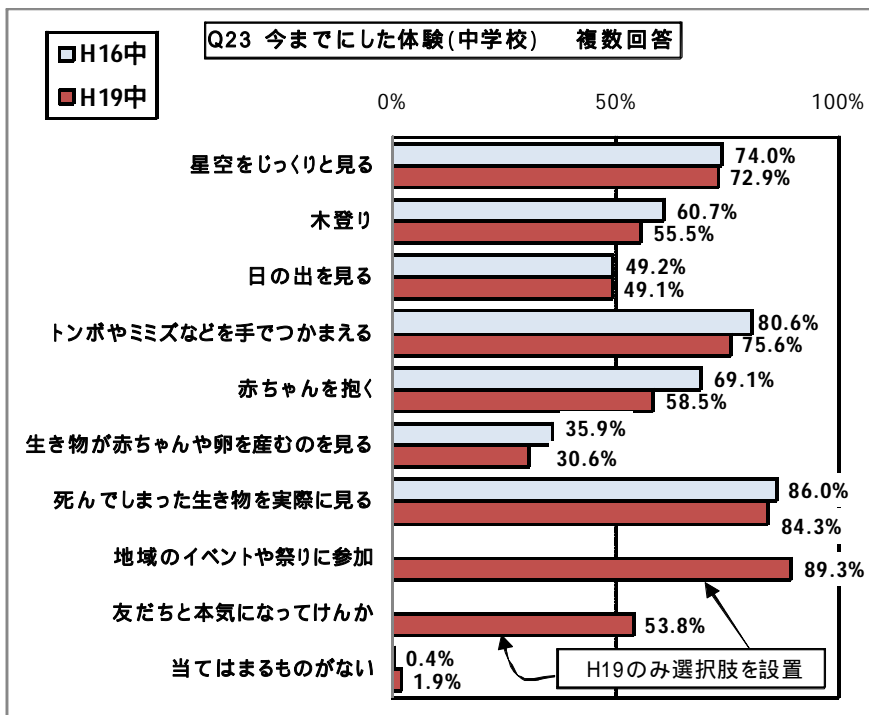
P21~22 児童生徒34~36「今までにした体験」

児童生徒34 今までにした体験(中学校)

中

⇒ 「赤ちゃんを抱く」が減少

Q23



【概要】

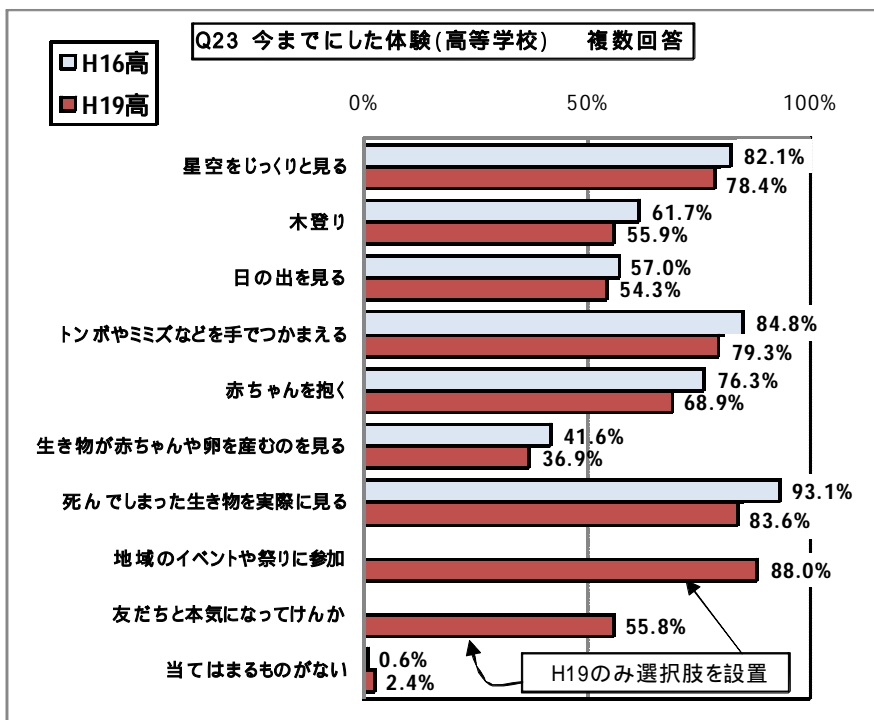
16年度調査より減少している内容が多く、特に「赤ちゃんを抱く」が大きく減少している。また、「木登り」、「トンボやミミズを手でつかまえる」と「生き物が赤ちゃんや卵を産むのを見る」もそれぞれ減少している。

【本調査との関連項目】

P21~22 児童生徒33・35・36「今までにした体験」

児童生徒35 今までにした体験（高等学校） 高
Q23

⇒ すべての内容が減少



【概要】

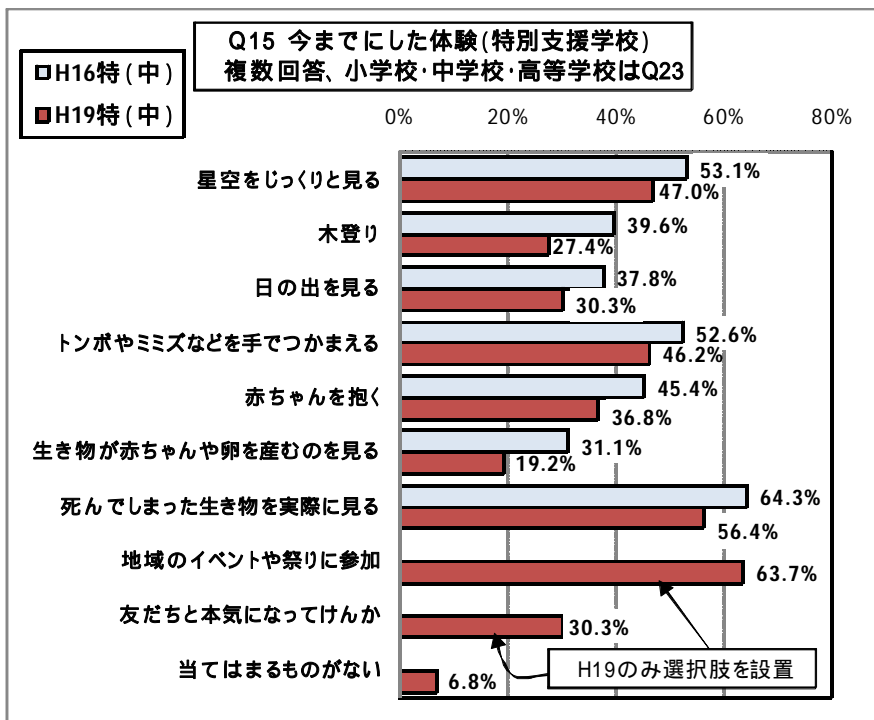
16年度調査と比較して、すべての体験の割合が減少している。特に「死んでしまった生き物を実際に見る」が大きく減少している。その一方、小・中・特別支援学校では、回答割合が50%以下であった「日の出を見る」が、高等学校では約54%と唯一50%を超えている。

【本調査との関連項目】

P21～22 児童生徒33・34・36
「今までにした体験」

児童生徒36 今までにした体験（特別支援学校） 特
Q15

⇒ すべての内容が減少



【概要】

16年度調査と比較して、すべての体験の割合が減少している。特に「木登り」と「生き物が赤ちゃんや卵を産むのを見る」が、大きく減少している。また、今回新たに設問した「地域行事への参加」と「友だちとけんか」は、小・中・高等学校に比較して、回答割合が少ない結果となっている。

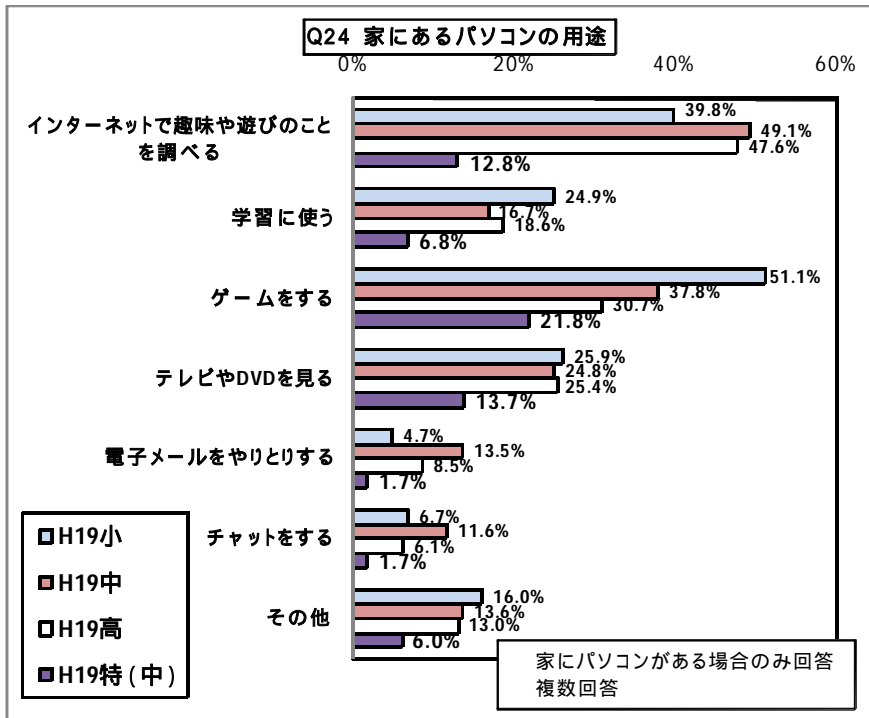
【本調査との関連項目】

P21～22 児童生徒33～35「今までにした体験」

児童生徒37 家にあるパソコンの用途

⇒ 校種によって用途に違い

小・中・高・特
Q24・Q24・Q24・Q16



【概要】

校種によって用途に違いが見られる。小学校では、「ゲームをする」が最も多く、学年が上がるにつれて使用の割合は減少している。中・高等学校では「インターネットの使用」が最も多い。また、中学校では、「電子メールの使用」が約14%となっている。

【参考】

○低年齢少年の生活と意識に関する調査
(平成19年 内閣府)

パソコンについてお聞きします。

あなたは、学校以外で次のことをしますか。

あてはまるものをすべて選んでください。(%)

	小5	中2
インターネットのホームページ見る	87.1	83.3
メールのやり取りをする	12.5	37.5
チャットをしたり掲示板に書き込む	9.4	24.2
ゲームをする	81.8	64.8
文や絵をかいたりする	31.8	22.7
パソコンは使わない	35.3	23.7

【本調査との関連項目】

- P26 保護者6「パソコン，携帯電話についての話し合い」
- P56 学級担任29「情報モラルの指導の有無」